



腹腔鏡手術のための設備

度の穴を2〜3カ所開けるだけでよい。痛みを最小限にして、動物の体への負担を大きく軽減する。「内臓の検査から、避妊手術まで、積極的に活用していきたいと思っています」

もう1つ、動物に優しい医療のために麻薬免許も取得。一般の鎮痛剤と比べ、より痛みを抑えられる麻薬性の鎮痛剤を使うためだ。「腫瘍の外科手術は、筋肉を切ったり、足を切ったり

と、大きな痛みを伴う手術が少なくない。麻薬性の鎮痛剤や局所麻酔などを、必要に応じて取り入れ、できる限り痛みを軽減するよう心がけています」

すべての命の生きる質を高める

南大沢どうぶつ病院の腫瘍治療の実績が評判になり、「前の病院でガンと診断されたのですが、本当でしょうか」と、セカンドオピニ

オンを求めて来る飼い主さんも少しずつ増えてきたという。「そうした場合、これ

までの検査結果は持つて来て頂きたいし、可能ならば、」

「前の病院でのレントゲン画像なども持参して頂きたい。数週間前のレントゲン画像があれば、現状と比較して、腫瘍の大きさの変化などの経緯も読み取れますから」

その上で、手術すべき状態かどうかを判断する。「ガンが治るのであれば、足も切ります。でも、例えば全身にガンが散らばっていたら、ガン自体はもう治せません。それならば、免疫療法や抗がん剤、放射線治療などを行いつつ、ガンと付き合いながら、いかにより良く生きるかを考えるべきだと思います」

こうした患者の治療のために、毎週麻布大学附属病院へ、放射線治療に通っている。どんな症状になっても、それぞれの動物が、それぞれの命を全うできるように、その力を惜しまない。「どんな時でも、私は、患者さんを自分の飼っている犬や猫だと思って治療しています」と保坂さん。

今、保坂家で飼われているのは4匹の猫と1匹の犬猫はすべて、里親募集で引き取った。小さな命の、生きる質を大切に。獣医師としてだけでなく、人として命に対して誠実であること。保坂さんが、頼れる獣医師として評判になっていく理由は、きつとここにあるのだろう。

痛みや体への負担をできる限り軽減し、動物に優しい医療を心がける日本有数の腫瘍の認定医



Minamiosawa Animal Hospital
南大沢どうぶつ病院

Doctor
保坂創史

南大沢どうぶつ病院の保坂創史院長は、全国に28名しかいない日本獣医がん学会認定・獣医腫瘍科第1種認定医の一人だ。腫瘍に対する知識と技術はトップレベルといえる。保坂さんは言う。「獣医師になって10年、私が理想と考え目指してきた獣医師像とは、広く浅くだけでなく、1つの分野に特化した専門性を持つて獣医師。私の場合は、それが腫瘍だったのです」

腫瘍の大きさ、周囲の組織との関連、リンパ節はどのような状況か、遠隔転移の有無など、さまざまな角度からの検査によって、その腫瘍が悪性か良性か、あるいはどの程度進行しているのか、骨や別の臓器への

転移はあるのか、全身麻酔は使えるか、抗がん剤は使えるかなどを調べることができる。

「今はどういう状態にあり、そのためにどのような検査が必要で、費用はいくらかかるのか、どのようなリスクがあるのかなど、丁寧な説明を心がけています。飼い主の方も、最近では自分でネットなどで勉強して来てくださる方が少なくない。そういう方は、こちらの説明への理解も深く、ありがたいと思っています」

動物に優しい医療と最新技術

保坂さんが取得した獣医腫瘍科第1種認定医とは、ペーパーによる1次試験と、

レントゲン画像などの題材による2次試験を突破した医師だけが取得できる。「世界中で、新しい論文が日々発表されていますし、治療法も進化しています。勉強を続けていけば、進化する獣医療に対応できな

「だから、海外の論文を取り寄せるなど、努力を怠らない。獣医療の基本理念について尋ねると、しばらく考え、「動物に優しい医療と最新技術です」と答えた。最新の技術を活用してこそ、動物に優しい医療も実現できる。その1つが、最近、取り入れた腹腔鏡手術のための設備だ。従来の手術のようにお腹を大きく切り開くことなく、5ミリ程